



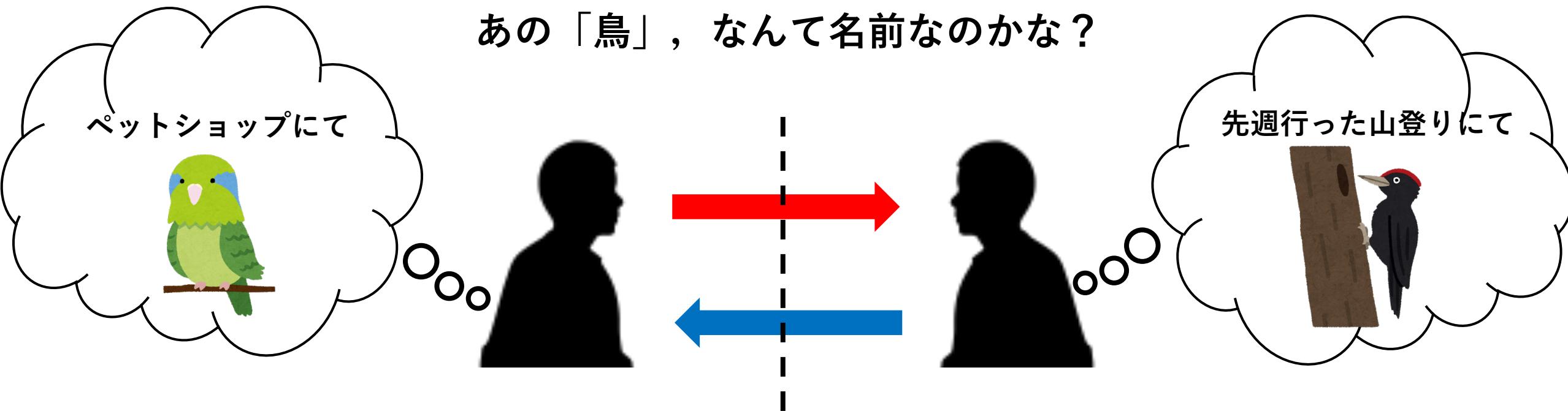
UTaTané 団体紹介



詳細はこちら
(Webページ)

代表 久保田 祐貴 (東大院・情報理工)
副代表 加藤 昂英 (東大院・理)
副代表 山下 萌莉 (東大・教養)

背景：科学を、どう「伝える」か？



「伝えた」つもりのものが「伝わる」とは限らない
コミュニケーションには、絶えず「解釈」の過程が伴う
→ 本質的なギャップがある中で、科学をどう伝えれば良いのか？

UTaTanéの活動概要

科学をどう「伝える」か？

科学との対話（ストックルマイヤー, 2015）

科学理解増進

科学技術の情報・研究を
一方的に発信

対話

知識交換により
多様な見方を媒介

知識構築

異なる知識からの
協創を目指す

目標：科学や学問と人々を繋ぐための「良いデザイン」を考える
学生主体・実践ベースの「研究室」的組織



UTaTanéに入るとできること

アイデアから実践開発、対外発表まで一貫して行っている

アイデア・展示案考案

「伝わるデザイン」に
自身の伝えたいものをのせる

展示案は活動日などで議論

筋の良いアイデアや展示案を
考えるノウハウを提供可

実践開発・運営

実際の展示や体験を
どう作れるか？

展示開発を行う資金を提供可

アプリ開発・展示開発の
ノウハウを提供可

対外発表・論文執筆

作成した展示や体験を
「形」に残す

対外発表や論文執筆を
戦略的に行う

論文調査や執筆をサポート

- ✓ **全体活動日（月1回）** : プロジェクト報告・新規実践の運営について
- ✓ **UTaTanéゼミ（月1回）** : 論文を皮切りに、様々な学際的話題を議論
- ✓ **その他ミーティング（随時）** : 個別のイベント運営、論文執筆、対外プロジェクトについて

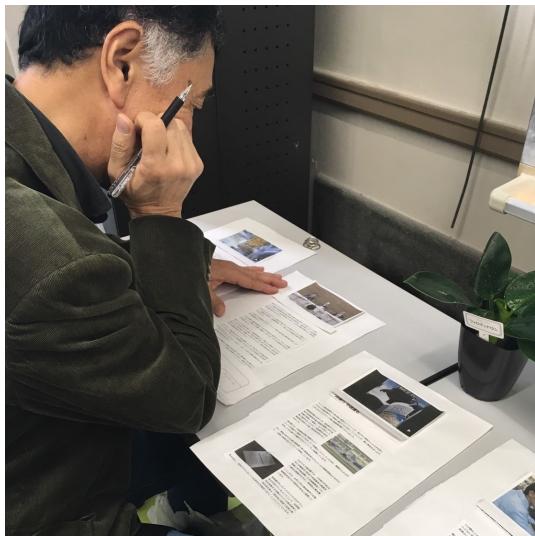
展示・対外発表の例

展示例：

ねじ曲げ見出し

ウソを作つて考える「メディア・リテラシー」

「ついクリックしてしまいそうな」見出しを考える
→発信者の視点から、情報のねじ曲げ方を眺め分析する



★ 自然の驚異が脅かす科学の権威
自然と科学の対立を莊厳な雰囲気で伝えたかった たか

★ 貴方も!?コロナが弄ぶ科学と情報の闇
心配と恐怖は、人間の生存欲求本能を強制的に反応させる ひよひよ

★ あなたは この記事も鵜呑みにしますか?
善意の情報拡散が本当はほこりびの元かもしれないって怖い にやんて 速報

★ 科学は死んだ
死んだなんて書いてないけど死んだことにしちゃえ やぬ 通信社

発表例：

論文誌『科学技術コミュニケーション』掲載

科学技術コミュニケーション 第28号 (2021)

報告

Japanese Journal of Science Communication, No.28 (2021)

参加者の自発的交流と参画を促す
科学技術コミュニケーション
～UTaTanéにおける2つの実践に基づく分析～

久保田 祐貴^{1,3}, 加藤 昂英^{2,3}, 一柳 里樹³

要旨

近年、参加者それぞれが、新たな視点や科学との関わり方を見いだすことのできる、対話を伴う科学技術コミュニケーションが注目されている。その実践では、科学技術に対する参加者の意見や知識を説明者や他の参加者が把握するとともに、参加者と説明者が共同で新たなアイデアや視点を生み出すことが重要な目的となる。本報告では、著者らのUTaTanéにおける一連の活動から2つの実践例を紹介する。これらの実践では、当事者性・受容可能性・柔軟性の3点に配慮した実践設計を行った。さらに、参加者の創作活動を対話の起点とすることで、参加者と説明者の双方が新たなアイデアや視点を見出すことを目指した。結果として、知己の者同士の直接的な対話だけでなく、初対面の者同士の対話や揭示された創作物を通じた間接的な対話など、多様な形態の対話が実現した。特に、参加者が自発的に話題を提供することで、他の参加者や説明者が新たな視点を得る場面もあった。加えて、「きっかけから探究への一気通貫のデザイン」が対話を伴う科学技術コミュニケーションを行う上で重要であることが示唆された。これらの実践と考察は、参加者の相互交流や参画を促す実践を行う上での試金石となり、実践を組み立てる際の一助となることが期待される。

久保田祐貴, 加藤昂英, 一柳里樹: 参加者の自発的交流と参画を促す科学技術コミュニケーション～UTaTanéにおける2つの実践に基づく分析～, 『科学技術コミュニケーション』28号, pp.61-74 (2021).

https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/80614/1/JJSC28_061-074_KubotaY.pdf

UTaTanéの特色

1. 学年・学問の垣根がない

- ✓ 所属メンバー：15名程度、新B2～D3、社会人（東大内外）
- ✓ 専門：教養、化学、物理、科学コミュニケーション、情報、社会学etc.
- ✓ 加入時点でも、（意欲に応じて）メンバーと議論しながら、作品を作ることができます！

2. コミットの自由度が高い

- ✓ 年会費ゼロ・学会投稿費は団体持ち（全て外部資金で運営）
- ✓ プロジェクトへの参加や運営は、メンバーの意欲と時間に応じて柔軟に対応
- ✓ まずは、気に入った展示やプロジェクトに関する議論に参加するところから！

Tips: UTaTanéと肌が合う（だろう）人

- ✓ 実践開発やものづくり or/and 対外発表を積極的に行いたい人: 一方のみでもOK
- ✓ 議論が好き / 苦手ではない人: 加入後にやり方に慣れていく形でもOK
- ✓ 「科学を伝える」ことや、コミュニケーションの問題に关心がある人



UTaTanéの新歓日程について（2021年）

① 他サークルとの合同新歓

4/1 (木) 10:15 - 12:00 東大サークルオリ [東大生限定]

4/4 (日) 10:20 - 10:40, 11:00 - 11:20, 11:40 - 12:00 [学外生・社会人OK]

4/11 (日) 10:20 - 10:40, 11:00 - 11:20, 11:40 - 12:00 [学外生・社会人OK]



個別新歓の案内を受け取りたい方
上記フォームからご登録ください！

② 個別新歓

4/18 (日) 20:00-22:00 UTaTané・4月活動日 [学外生・社会人OK]

UTaTanéの普段の活動の紹介や、五月祭に向けた展示開発の議論（聴講のみも可）

4/25 (日) 20:00-22:00 UTaTanéゼミ [学外生・社会人OK]

UTaTanéの実践についての論文紹介を皮切りに、「科学を伝える“良い”デザイン」を考える

*本スライドの5ページに紹介した論文を取り上げます。

個別新歓にて、UTaTanéの活動の様子をぜひ見に来てください！

また、通年で新歓募集を行っています

活動実績・概要

論文・学会発表 2件

- ・久保田祐貴,加藤昂英,一柳里樹: 参加者の自発的交流と参画を促す科学技術コミュニケーション, 『科学技術コミュニケーション』28号, pp.61-74. [論文誌採択]
- ・久保田祐貴,一柳里樹,澤田和宏,田中優之介,加藤昂英: 虚偽情報を含む広告・見出し創作活動に基づく発信者視点でのメディア・リテラシー醸成の実践報告, 教育工学研究会研究報告書20-4, pp.69-74.



出展一覧

学外出展 7件

- ・2021.3.6 Quora ClubQオン会
 - ・2021.2.15 - 3.31 第6回すぎなみサイエンスフェスタ
 - ・2020.11.23 コミュタン福島開所記念イベント・監修協力「ラボ5h5Eの秘密」[主催者より依頼]
 - ・サイエンスアゴラ2020 [採択] / サイエンスアゴラ2019 [採択]
- etc.

学内出展 9件

- ・2021.5.15 – 5.16 第94回五月祭（予定）[みどころ企画に選定]
 - ・2020.11.22 – 11.24 第71回駒場祭 [学術企画に選定]
 - ・2020.9.20 – 9.21 第93回五月祭 [みどころ企画に選定]
 - ・2019.12.8 第4回SCを考える会
- etc.



補足資料

団体理念・信条

理念

イベントを通した生活知と専門知の対話・交流

広範な専門知に裏付けられつつ、生活知や経験知に寄り添った自由度の高いイベント設計で、**一方向的な知識の啓蒙に止まらない主体的で対話的な取り組み**を促す。

信条

個々人の興味・関心を最大限に引き出す、 流動的なイベントデザイン

構成員の興味・関心を最大化する形で、**扱う内容や形式を流動的に変化させ**、知的交流を創出しつつ、一人一人の強みを最大限に引き出すイベントを実現する。

活動実績 2018年度「未来の生活」

変わる世界、変わらない私 ~20年後の未来を描く~



- ・「生活空間の再現」により「専門家－非専門家」や「子ども－大人」といった壁を感じることなく対話できる場を提供
- ・「対話」に加え、「生活知に基づくアイデア構成」まで達成



社会実装のアイデアを、ws形式で幅広く・深く引き出すデザインが可能に



活動実績 2019年度「創造性」

「つくる」ってなんだろう？ ~How Do YOU Create?~



・生活知を引き出す対話デザインの方法論を確立

- (1) **受容可能性**：「自分が参加しても良い」という感覚を与えること
- (2) **当事者性**：科学や学問を自分の価値観の中に捉えること
- (3) **柔軟性**：参加者の回答に応じて、対話の内容を柔軟に変化させること

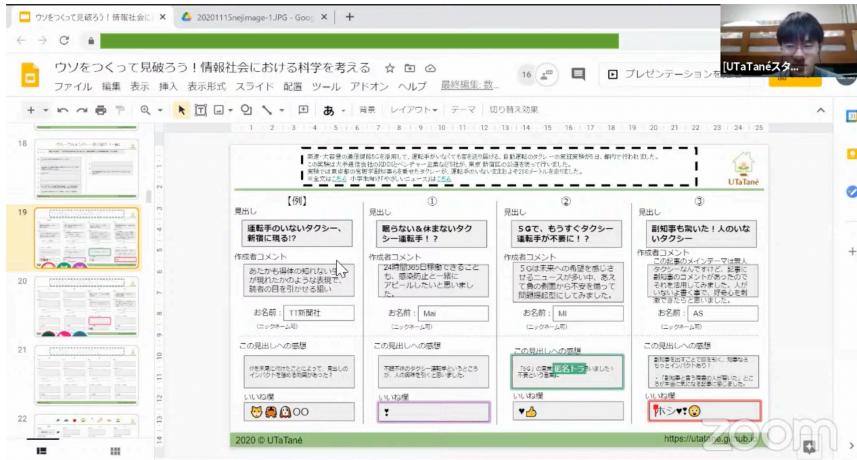


→よりアクティブな活動の中で、科学や学問を考えるきっかけづくりに成功

活動実績

2020年度「科学の相対化」

見える世界、見えない世界～科学と私をつなぐもの～



科学色 (SCIENCE)

理科の教科書の色	自然	輝き	空のイメージ	宇宙の色	情熱
無限の可能性	電気のイメージ	自然	蛍光？	自然の色？	まっさらな心で臨む
理科室の机の色	薄暗い部屋のガラス	薬品の色	深海	科学には、自然がいつも関わって思ふから。	人類にとつて明るい希望を感じさせる色
多くの物質はこんな感じの色をしてもう見えないと	よくわからない名も無理の色をします	理性のイメージ	未来を明るく！(願い)	自然	ケミカルなイメージ
神秘的でキラキラした感じ	理性	うい	白衣・研究施設の塊・進歩・未知	青色系の落ち着き感と硫酸銅的なケミカル感	なんとか。
サイエンスのイメージ	なんとなく	自然の色	地道な知識・人間の思考の泥臭さを連想し		

科学技術コミュニケーション 第28号 (2021)

Japanese Journal of Science Communication, No.28 (2021)

報告

参加者の自発的交流と参画を促す
科学技術コミュニケーション

～UTaTanéにおける2つの実践に基づく分析～

久保田祐貴^{1,3}, 加藤昂英^{2,3}, 一柳里樹³

要旨

近年、参加者それぞれが、新たな視点や科学との関わり方を見いだすことのできる、対話を伴う科学技術コミュニケーションが注目されている。その実践では、科学技術に対する参加者の意見や知識を説明者や他の参加者が把握するとともに、参加者と説明者が共同で新たなアイデアや視点を生み出すことが重要な目的となる。本報告では、著者らのUTaTanéにおける一連の活動から2つの実践例を紹介する。これらの実践では、当事者性・受容可能性・柔軟性の3点に配慮した実践設計を行った。さらに、参加者の創作活動を対話の起点とすることで、参加者と説明者の双方が新たなアイデアや視点を見出すことをを目指した。結果として、知己の者同士の直接的な対話だけでなく、初対面の者同士の対話や掲示された創作物を通じた間接的な対話など、多様な形態の対話を実現した。特に、参加者が自発的に話題を提供することで、他の参加者や説明者が新たな視点を得る場面もあった。加えて、「きっかけから探究への一気通貫のデザイン」が対話を伴う科学技術コミュニケーションを行う上で重要であることが示唆された。これらの実践と考察は、参加者の相互交流や参画を促す実践を行うまでの試金石となり、実践を組み立てる際の一助となることが期待される。

久保田祐貴, 加藤昂英, 一柳里樹, 参加者の自発的交流と参画を促す科学技術コミュニケーション～UTaTanéにおける2つの実践に基づく分析～, 「科学技術コミュニケーション」28号, pp.61-74 (2021).

・オンラインイベント、学会発表・論文発表、共同プロジェクトを新規展開

- (1) サイエンスアゴラ2020企画、東京大学五月祭・駒場祭などで多様なオンラインイベントを展開
- (2) 論文誌採択を含む、学会発表・論文発表の戦略的展開
- (3) 学内外の団体や個人と共同プロジェクトによる展示開発を開始

→当団体の活動による、学術コミュニティを含む多様なコミュニティへの貢献を実現